

第5回はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会  
議事概要

日時： 平成27年6月3日（水）13:00～15:00

場所： 総合あんしんセンター3階 中会議室

出席者： はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会委員

委員長 青木 章泰  
副委員長 広末 幸彦  
副委員長 岡内 啓明  
委員 澤村 朝子  
委員 安藤 一臣  
委員 大西 みちる  
委員代理 澤田 尚人  
委員 松田 誠祐  
委員 河合 祐子

高知県

総務部長 梶 元伸  
総務部副部長 北村 強  
政策企画課長 竹崎 恵彦 外

高知市

商工観光部長 中澤 慎二  
商工観光部副部長 松村 和明  
商工観光部参事 狩場 信壽 外

- 1 開会
- 2 高知県総務部長、高知市商工観光部長あいさつ
- 3 議事  
(1) 東西軸エリア活性化プランの取り組み状況について  
【資料4】市商工振興課説明  
【資料5】県政策企画課説明

**意見交換**

(副委員長)

街路市活性化構想の規制緩和について、日曜市に出店できる業種や販売できる商品についてもう少し詳しく説明を。

高知のナイト観光について、前回も議題にあげたが、はりまや橋公園付近に博多の屋台と同じレベルの屋台群を常設できないか。本当の意味の観光の集積として夜の部分を作れないか。東西軸の西と東が引っ張り合い人の流れが生まれることにつながるのではないか。

<事務局>

街路市活性化構想の規制緩和でどういった日曜市・街路市を目指すかということについては、ここ15年ほど日曜市などには農家しか新規参入できなかった実態があったが、農家も減り、農家の中で街路市に出たい人も減っており、市が寂しくなるということで、新規参入要件を緩和するということを街路市

活性化構想で決めた。具体的に農家・農産物以外にどういった業種・商品を入れていくかについては、今年度、出店者組合などの意見を聞きながら具体的に考えていく。これまで入れなかった新規の方が街路市に入ること、業種・軒数・商品数などが増加し賑わいも増すという形の街路市の活性化を目指している。

(副委員長)

ぜひその柔軟性を生かしてほしい。高知の観光で非常に重要なポイント。また、なるだけ業種も含めこういう形のゾーンになると、日曜市の全体イメージ図を示してほしい。

おびさんマルシェは最近さらに素晴らしくなっている。大いに参考にすべきだし行政としてさらなる支援をしていくべき。おびさんマルシェのような形のものをさらに光らせていく動きが大事。

(委員)

おびさんマルシェで大事にしていることは、1つは商店街の活性化。もう1つは、ハンドメイドの雑貨やアクセサリを作る方や自分で生産・加工したものを扱う方達の作品・商品を見せる場・売場を設けたい。家賃を払って店を開くのは大変だが、おびさんマルシェに出して手応えを感じて、ゆくゆくは店を出すといったステップアップの場として、チャレンジショップのような感じでやっている。街がもつオープンモール、ヨーロッパの並木道を意識した雰囲気・街並みといったものに賛同してくれる出店者も多く、個性を光らすイベントとしてやっている。困っていることもたくさんあるので聞いてもらえるとう助かる。

(委員)

ニューヨークなどの大都市では、路上店舗に改めて光を当てていく構想が活発になってきている。おびさんマルシェはまさにその高知版。物販で本当に欲しいものを売っているというコンセプトで成功している。

ハード面は相当程度進捗しているが、「てんこす」のレジ通過数が目標に未達という状況などみても、本当に物販が伸びていくのか。飲食関係は相当程度伸びていると思うが、物販で伸びる要素が見えず、ジリ貧になる感じが強い。ハード整備で人通りが増えるが物が売れないという状態を皆さんがどう考えているのか。また、今後取り込んでいくべきは県外客や中心部に戻ってくる若者となると思うが、ここをどう考えているのか。

外国人観光客対応について、Wi-Fiの整備は良いことだが、整備してもネットに情報がないと意味がなく、かつ英語でないと意味がない。

自分も帯屋町で買い物しようとしてMAPを紙でもらったが、ネットでは使い勝手が悪く、英語になっていないので外国人には使えない。ソフト的な整備で県外客や外国人を物販に呼び込んでいく流れがあるといい。

(委員長)

売上に結びつくということが、商店街の持続可能性や雇用につながっていく。通行量などはあくまで一つの手段としてみるべきもの。

(副委員長)

店の売上が上がって初めての活性化。今までの長い歴史で、例えば家具・インテリア、おもちゃ屋は面積があるので郊外へといった流れの中で業種構成がアンバランスになり、(業種を)揃えられないということは認識している。ハード整備はできてきたので、今後は個店それぞれが切磋琢磨し、商店街が主導し色々な業種を呼び込むということをしなさいといけない。人が増えるが売上が伸びないという同じ悩みを持って動いている。

また、光る店も多くありどれだけ増やしていくか。県が初めて出す既存の店の改装の補助金といったものをうまく利用していきたい。

売上がついてこないと本当の意味での商店街の活性化ではない。

#### <事務局>

「てんこす」については、H22.2.19に高知県内のアンテナショップ的な位置付けも持たせオープンした。当初は県市が補助していたが現在は補助はしていない。オープン時は1日の売上平均が約20~23万円が、現在は平均40万円を超える状況。アンテナショップという公共的な面と事業者としての収支という面を両立させていくということで事業者もいろんな取り組みをしてきた。以前より扱い品目も増えてきたが、売れ筋ばかり置いておけない宿命もある。物販はかなり伸びたが、飲食の売上が少ないという課題が残っている。この点は事業者とも話していきたい。

外国人観光客については、今後の課題。ネットでの情報が少ない、目的地となりやすい高知城の多言語表記が少ないというところが大きな課題。他にも両替機能や港のターミナル機能をどうするかなど色々な課題がある。

まずは、高知城の多言語表記を徹底してやっていきたい。情報についても、個別の店舗情報までできるか分からないが、県として9月上旬を目途に観光WEBサイトを立ちあげていきたいと考えている。それにどれだけリンクして情報を発信できるのか、現在情報を集めている状況。

#### (委員長)

ナイト観光については。

#### <事務局>

大きな話なので持ち帰って検討したい。

#### (委員)

取り組みが進んで大変結構なこと。高知城の眺望についても、樹木の剪定が行われ良かったなど感じた。

イベントは、初めはある程度の補助があってできるようになっていると思うが、ずっと補助していくことは恐らくできない。将来的な見通しをどう考えているか。

#### <事務局>

イベントについては、国のにぎわい補助金を活用しており、これは継続的に今後も実施していくことについて想定した補助金である。今後も高知市として一定支援していかなければならないと考えているが、永遠にしていくことにはならない。商店街ともお話をしながら自立したイベントになっていくように考えていきたい。

#### (委員長)

街そのものの魅力をどう作っていくかが極めて大事。それにイベントが加わればこれほど強いものはない。大事なことは街作りをどうしていくかという基本を忘れないこと。

#### (副委員長)

公共交通の利用促進のため、商店街もお買い上げに応じて基本料金をサービスする取り組みを長いことやっているが、利用が停滞している状況なので、再度電車・バスで来てもらいたいとアピールしたい。歩いて楽しむ街なので、車ではなく公共交通で来てもらいたい。

図書館、博物館が公共により整備され、電車・バスも公共の出資。商店街と足並みを揃え、(大橋通

り) 電停まで電車・バスで来てもらうことに対し、利用客にサービスするということを考えられないか。特に高齢者に対して。

商店街だけでなく、県庁・市役所にも電車で来てもらいたいと、官も一緒になって街へ来るには公共交通でとアピールをする。さらには、ターミナルとして県庁や市役所付近にロータリーを造って乗り降りできれば、大橋通りは歩いてすぐである。そういうことはできないか。

#### <事務局>

図書館を車で利用される方には駐車場を提供し、それで収まらなければ周辺の民間駐車場を利用する方にも補助しようかと進めてきた。公共交通機関の利用者にどういったサービスをするかは課題であり研究させてほしい。

#### (委員)

例えば、図書館の利用カードとICカード「ですか」を連携させて、公共交通の利用促進プラス図書館の利用促進、さらにそれが商店街に流れてくるようにできないか。商店街の店舗に端末を入れるのは負担が大きいのので、アナログで、「ですか」をレジで見せると割引するサービスや食後のコーヒーのサービスなど、一体型でサービス強化しないとそれぞれの利用者を増やすことはできない。

#### <事務局>

「ですか」との連携は内部的に検討したが、図書館のシステムは個人情報の保護の観点から他のシステムとの連携が困難。例えば佐賀県武雄市のような形でやっているところがあるので今後研究しないといけないとは考えているが、現時点では難しい。

#### <事務局>

ターミナルの整備については、規模や費用、また街なかで乗換えて街なかへ移動するのかということもあり、一局集中したものは現在の方向性としては困難な状況であるが、引き続き検討課題としていく。

一番利用者が多い県庁前からはりまや橋の間の乗り継ぎの利便性の向上について、県庁前での乗換的なことを検討しながら、高知駅、はりまや橋観光ターミナル、棧橋のとさでん交通本社を乗換え拠点としてどう活かしていくかについて検討課題としており、年度末までには一定の道筋をつけていきたいと考えている。

物販と公共交通の連携については、例えば、飲食が安くなるグルメパスポートを利用するとき、公共交通で行った場合、客と店舗が Win-Win の関係となるような活用方法はないかといった意見は、底辺では出ている。

#### (2) 東西軸エリア活性化プラン計画終了後の対応について

【資料7】市商工振興課説明

【資料6, 8~10】県政策企画課説明

本年度が計画期間の最終年度にあたることから、今後も継続して実施すべきものや新たな課題等については「高知市中心市街地活性化基本計画」に統合し一本化する。今後は、当委員会に専門部会を設置し、統合に向けた内容を検討していくことを説明。

→異議なし

#### (3) その他

(委員)

中央公園の通路橋の工事について、「土佐のおきやく」の開催期間とかぶり、9日間ずっと中央公園とおびさんロードが連動できず、お客の流れが止まってしまったことが残念。工事の案内表示に迂回路がきれいに説明されておらず、お客さんが通れないと思いアーケード側へ大きく迂回してしまった。今度のトイレ工事の際には、案内版や迂回路の案内について、高知のおもてなしを感じるデザインや表記にしてほしい。

中央公園のイベント情報については、現在のHPでは情報量が少ない。利用者がそれを見て来るということもあるが、中心商店街の他のイベントを中央公園のイベントと同じタイミングでやりたいので、どの週末に開催するか調整する目安になる。できるだけ先の情報と、イベントのリンク先や開催時刻も表示してもらえると有効に使える。

駐車場の利便性向上について、ゴールデンウィーク時に特にひどかったひろめ市場と付近の民間駐車場の混雑具合を見ると、県外の方に申し訳なく、どうにかならないか。県おもてなし課やボランティアの方が駐車場案内のピラを最後尾で配っていたが、行列の最後尾では少ししか効果はない。事前にWEBで駐車場情報を出す、予約した宿泊施設が駐車場の案内をしておく、駐車場アプリの開発などいろいろアイデアはあると思う。官民一体となって考えていかないと、土日祝日や連休の駐車場の状況はもったいない状況が続いている。

(委員)

外国人対応の多言語化はコストがかかるため、まずは英語でいいのでは。お金を使ってくれる人達は大抵英語が読める。中国語、韓国語、インドネシア語やタイ語など最近増えているものを考えて多言語化という話があちこちから出てくるが、六カ国語にするのと英語にするのではスピードが違う。まずは英語だけでスピードアップした方がいいのではないかな。それでも十分外国人客の取りこぼしは少ないと思う。

公共交通機関の利用の促進は、ICカードの共通化が一番効果が高いが、それが難しいようであれば、公共交通機関を使って来て欲しい施設の中にICカードをタッチすればポイントがつく機械を構える。ついたポイントは公共交通機関でしか使えないのでインセンティブとしては少ないかもしれないが、少なくとも公共交通機関を使う事を推奨しているという大きなメッセージになる。こういった施策は世界中でやっているので研究する価値はある。

高知城公園について自分が県外人として強く感じたことだが、あれだけ植物が豊かな所なので、今ここに行くとこういう花が見えるというMAPがあるといいなと思った。梅の段などもすごく綺麗だが表側から入ってきて梅が咲いていることも分からない。4月に中国人観光客があれだけ桜を見に来たことを考えると意外と日本の公園の花は観光資源としてすごくいい。既にあるものなので地図さえ作ればいいだけ。検討いただければ。

(委員長)

季節性を色々な場面で入れていくことは大切なこと。春に来たらここではこんな花や街路樹、秋は紅葉など。

公共交通については、バスや電車で、ひろめ市場はどこで降りたらいいか聞かれる。「ひろめ市場前」となっていないから、「大橋通りひろめ市場前」となればいい。利用者の視点としてどう考えるか。できないはともかく色々なことを検討しないといけない。例えば、雨の日は電停から大橋通りまでの間で濡れるから屋根をつけられないかなど、色々な可能性を検討することで課題解決が前進していく。

観光客がワンコインで利用しやすい方法を考えると、高知独自のものを考えていくことが視点として大事。それが高知にもう一回来たい街づくり、おもてなしにつながっていく。

普段、中心商店街に休むところ、トイレが少ない。折角空き店舗があるならその一つ二つを活用するのも一つの方法では。もう少し利用者の視点で足りないものは何かを考えることが大事。

東京の虎ノ門の通りのように、見えて良い街だなと思えるように。ヨーロッパだとそういう風景がよくみえる。そういったものも含めているんな意味でまだまだ取り組んでいったらいいというものが見えて来ると思う。

特に県外から高知に来られた人の新しい目線が非常に大事。

#### 4 閉会